

新たな可能性 Changing Possibilities

トム・ベンダー

本論文は、Sharing Smaller Pies (『小さなパイを分け合う』 Rain, 1975) からの抜萃。著者は、適正技術に関する月刊誌 Rain: Journal of Appropriate Technology の編集者の一人である。

豊富な資源のおかげで、つい最近まで私たちは、判定することや見識を持つ必要性、「これはわれわれにとって良くない」と言明する強い道徳心と無縁だった。分別に欠ける行動の影響や副作用を隠蔽したり、建造物を安価に建てかえ、外来の物資やエネルギーを運び込んだりすることができたために、私たちは、すぐに利益をもたらすことが確実であったり、とにかく実現可能だというだけで、どんなことでも——結果として生じる代償や損害にかまうことなく——実行に移すことができた。これには、ひとつ肯定的な側面があった。すなわち、何ひとつ制約もなしに私たちの倫理的、道義的な見識を吟味し、誤謬を通じて、より深く、より本質的な基盤に到達し、自分たちが正しいと考えるさまざまな選択を行なう機会が与えられていたということだ。

豊富な資源は、私たちに新しいテクノロジーや社会的政治的機構、そしてこの世界に関するさまざま

な見方を探索することを可能にしてくれた。私たちは、古い仮説を試みることや、大自然がどうの昔にあきらめてしまった進化した行き止まりを再度くりかえせるのおかげで、私たちのこの世界の真の可能性や限界のより深い理解に行き着く機会を手に入れている。このような理解は、より大きく、また、より厳密な自由を与えてくれ、また私たちができること、やるべきこと、してはならないことについての、より完璧で正確な理解をもたらしてくれるだろう。人間の気紛れな法を自然界の法則の諸現実に近いければ近づけられるほど、それはよりしつかりとした有意義なものとなり、それを実践するにも維持するにも手がかからなくなるのである。大自然の法には全的な自由というものがある。つまり、われわれがそれをおして進んでいかねばならないさまざまな現実をはっきりと示してくれるのである。

こうした吟味の期間には必ず限りがある。そして、いま、それはまさに終わりを迎えようとしているのだ。こうした一連の試みを支えてきた安価なエネルギーは残り少なくなり、私たちのその実験のつけはあらわとなり、それを払いきれない状態が急速に進行しつつある。このことは、私たちに個人として、また、ひとつの社会としての諸価値の育成と選択を迫り、私たちの生存と幸福に最大の恩恵をもたらす生き方や労働、関係や感性を開発し、かつ、それらを維持するための道義的な規律を作りあげていくことを要求している。

現在の私たちのものの見方に反映されているのは、ものあり余った状態であり、また、その豊かさがさらに増大し、いつまでも続くという保証である。これまでは安価なエネルギーがあり、仕事の効果を倍増し、私たちの夢をたやすく実現してくれていた。天然資源は豊富で容易に確保することができ

た。これらの資源に比べて私たちの人口は少なく、したがって比較的不足していたのは人的資源の方だった。

私たちは、人間の労働が機械によって代行可能であり、また、そうなるべきだと考えていたし、この交替が私たちの幸福に貢献するものだと思ひ込んでいた。私たちは物質的な富を増大させることが生活の質を向上させる唯一の手段、ないしは第一義の方法だと考え、物質的な生産能力と生活の良し悪しを等価と見なすところまでできていたのである。

大量の資源を用いて物質的に生活状況を変えてゆく新しい能力のものの珍しさと興奮のために、私たちはこうした活動を正当に評価することができなくなっていた。こうしたまったく異質なテクノロジーに不馴れであったことが、つい最近まで、そうした評価や理にかなった制御を不可能なものとしていたのである。

私たちは、自分たちのさまざまな活動がひとりひとりの人間にもたらす経済的、社会的影響にほとんど注意を払うことをしなかったし、ましてや異なる文化に属する人々については、それ以下の関心さえも払おうとしなかった。そうした問題は、物資やサービスのより大きな生産によって解決されるだろうと考えてきた。ないしは、自分たちが他と比べて物質的にはるかに豊かであることや、いわゆる機会平等などを理由にまったく取るに足らない問題と考えてきたのである。私たちはまた、自分たちの科学とテクノロジーが生んだ見かけは強力な道具が、自分たちの暮らしの別の側面にも応用でき、それが物質的な幸福に及ぼしたのと同様な好ましい影響を現わすだろうことに大きな確信も抱いていた。私たちは

は、自分や他の人々の面倒を見、健康や教育や安全を見守り、私たちのさまざまな活動がもたらす影響を配慮する個人としての責任をうまく制度化できると思っていた。

しかし、こうした見込みは間違いであることが判明した。

私たちは、ここ半世紀あまり、この惑星にとって前例のないテクノロジーの発達という方向へ突き進んできた。そして、いま、その道を進み続けることはもはや不可能であり、好ましい影響もないことになりつつある。私たちの社会の健全さ、安定性、永続性、そして個人の自由、個人的な成長や社会全体の健康と幸福にふさわしい条件を確保するには、これまでのものにも変わる新たな道が必要とされているのである。

(堤雅久訳)